

## 沖縄県公安委員会定例会会議録（令和6年12月19日）

### 1 主な報告等

#### (1) 犯罪被害者週間における啓発活動の実施について

委員から、「被害者支援を考える県民の集い」に参加したが、被害者の御遺族は、つらい体験を思い出して伝えるのも苦痛であるのに、加害者の立場に立った話もあり、大変印象に残った。犯罪被害者支援は大変重要な課題であるので、今後も広報啓発活動を継続していただくとともに、市町村による犯罪被害者等支援条例の制定に向けた働きかけに努めてもらいたい旨の発言があった。

#### (2) 宜野湾警察署新庁舎の完成及び落成式の実施について

委員から、新庁舎は旧庁舎の約2倍の広さで機能的な動線がきちんと確保されている。また、証拠品センターや空調設備の備わった動物小屋の新設など、最先端の機能が備わった警察署庁舎である。この新庁舎における勤務環境や機能などを今後予定されている警察関係施設の建設に活かしてもらいたい旨の発言があった。

#### (3) 学校及び大学生と連携した少年非行防止・被害防止対策について

～教育庁・警察本部等連絡協議会の開催～

委員から、教育庁・警察本部等連絡協議会において、活発な意見交換がなされ有意義な会議となったことを評価する。このような会議は、教育機関との情報交換、問題意識の共有及び人的ネットワークの構築のためにも大変重要である。今後とも相互に様々な視点から会議テーマを提案するなど引き続き、活発・有意義な会議を開催していただきたい。また、高校生が自ら企画立案し、情報発信する取り組みである「ちゅらマナープロジェクト」は大変良い施策である。当県は、非行少年に占める中学生の割合が高く、今後、闇バイト等の当事者となることが懸念される。闇バイト対策の講話等については、多感な時期にある少年の特性を理解した上で、分かりやすく説明を行い、その危険性を十分に理解させることが重要である。そのためにも少年と年齢の近い大学生少年サポーターによる出前授業などの取組についても検討していただきたい旨の発言があった。

#### (4) 第40回捜査用似顔絵講習会の開催結果について

委員から、過去に行われていたモニタージュ写真という手法より、実際に目撃した顔の特徴を捉えて描かれる似顔絵のほうが犯人の早期検挙に効果的であるということが説明を受けて分かった。似顔絵作成は、作画技術はもちろん、相手から必要事項を聞き出すコミュニケーション技術も重要である。また、顔の特徴を捉える訓練は、職務質問など他の業務にも生かせるので、より多くの職員が受講できるようにして、この講習会を継続していただきたい旨の発言があった。

#### (5) 機動隊特別企画「報道関係者による機動隊体験入隊」の開催について

委員から、報道関係者による機動隊体験入隊の様子をテレビのニュース報道で拝

見したが、機動隊員の日頃の厳しい訓練状況や災害現場等における活動状況がよく分かる大変良い企画である。報道関係者が機動隊の訓練を体験した後の感想から、機動隊員の苦勞がよく伝わってきた。この放映を見た子供達が、警察に興味を持ったり、良い印象を持ってくれればよい。今後、報道関係者の力も借りながら県警察の人材確保につなげていただきたい旨の発言があった。

#### (6) その他

警察本部から、沖縄県議会（11月定例会）では、各部長等幹部を始め関係職員が協力をし、代表・一般質問、各委員会を終えた。県議会議員からは水難事故防止対策、交通安全対策、組織犯罪対策等について質問があり、問題提起がなされたが、これらについては「県民の声」として真摯に受け止め、沖縄県内のより良い治安対策につなげてまいりたい。また、犯罪被害者支援条例の制定を始め、このような市町村等と協働した取組は、県民に安心を与える面でとても重要であることから、今後とも県・市町村と連携した各種対策を進めてまいりたい旨の発言があった。

## 2 主な決裁等

### (1) 警務部

- ・ 公安委員会関係報告
- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について
- ・ 令和7年沖縄県警察運営指針・活動重点（案）について
- ・ 苦情申出制度の改正について
- ・ 裁決書の決裁について
- ・ 審査請求の受付について
- ・ 令和6年管区優秀警察職員表彰の受賞について
- ・ 監察関係報告

### (2) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について
- ・ 弁明書の作成について

## 3 その他

12月13日（金）、臨時会における決裁

- ・ 警察職員等の援助要求について